

横田・基地被害をなくす会 NEWS

連絡先：〒196-0001 東京都昭島市美堀町 3-13-1 TEL&FAX：042-542-5625 E-mail：yokota_nakusukai@yahoo.co.jp
http://www.geocities.jp/yokota_nakusukai/ (事務局ブログ：http://blogs.yahoo.co.jp/mjfq770)

原告募集締め切り（第 1 次） ＝ 9 月，提訴 10 月予定

第 9 次横田基地公害訴訟は，表記の通りの予定で進んでいます。当初の予定より数か月の遅れが出ていますが，最後の追い込みに入ったところです。当会の会員の皆さん，会員のご家族や知り合いの方など，心当たりの方がありましたら，原告に応募するようはたらきかけてください。

この 7 月末に，普天間基地の海兵隊所属機 KC130(見た目は C130 と同じ空中給油機)が，わざわざ横田基地にやってきてパラシュート部隊の降下訓練を行いました。そして，話題のオスプレイも，当初は沖縄配備の足慣らしの場所として横田基地が候補に挙がりました。米軍の動きは，地元住民の顔を伺っているとも思えます。もちろん，日本政府の外交における主張のなさが，米軍が日

本で好き勝手に行動する最も大きな要因だと思いますが…。

今，全国の仲間と一緒に基地被害に対して声を上げ続けることが，私たちの人権を守り，とりわけ大きな危険と負担を強いられている沖縄の方たちの人権も守ることになるのだと思います。そして，基地被害を訴える私たちの声が大きいくことを表すために新訴訟における原告数が必要なのです。

横田基地の基地被害を受けている人の数は，数万人～十数万人と予想されます。しかし，現状は，まだ前回の訴訟「横田基地飛行差し止め訴訟」の原告数(359 名)にさえ達していません。原告数を増やすために，皆さんの積極的なご協力をお願いします。

(事務局長：福本)



1976 年 4 月 28 日，横田基地公害訴訟（第 1 次）提訴。原告数 41 名。翌年第 2 次訴訟 112 名が提訴し，併合された。地裁・高裁を経て，1993 年 2 月 25 日最高裁の決定が出た。午後 9 時～翌朝午前 7 時までの飛行差し止めは棄却だったが，過去分の（騒音）被害は違法と判断されて提訴 3 年前から審理の最終日である高裁結審日までの期間を対象として慰謝料を支払え，という内容で確定した。



1994 年 12 月 12 日，横田基地飛行差し止め訴訟（第 1 次）提訴。原告数 320 名。2000 年第 2 次訴訟 39 名が提訴し，併合された。地裁・高裁を経て，2009 年 4 月 10 日最高裁の決定が出た。判決内容は，第 1・2 次訴訟とほぼ同内容だったが，国の主張する「危険への接近論」（1966 年 1 月以降の基地周辺への居住者は被害を知っていたとする論理。地裁判決では慰謝料の減額が行われた）は排除した。

横田・基地被害をなくす会、 第3回定期総会報告

横田・基地被害をなくす会の第3回総会が、6月10日午後2時より昭島市武蔵野会館において開催されました。

議長に日野市の鷺尾さんを選出した後、審議が進められ、出席された会員の皆さんの満場一致により2012年度の活動方針が決定されました。

審議の中で、第9次横田基地公害訴訟の8月としていた立ち上げは、原告数の増員や訴訟準備などの関係で9～10月にずれ込む状況であることが提起され了承されました。

今後は原告数の増員に向けて、早急に対応しなければなりません。会員の皆さんや関係者の皆さんの原告対象者への声掛けをお願いいたします。また、前回訴訟に参加されていた方々や労組なども含め、個人等にも働きかけが必要かと思われま

1. 政府や米軍、周辺自治体への働きかけ

横田基地への自衛隊の移転が行われました。自衛隊との関わりを如何にしていくのかという課題が出てきました。

2. 基地の実態や被害の学習・調査を行い、発信する。

3. 全国の闘いに連帯し、諸行動を行う。

4. 会員数の目標を500名とする。

等の闘いの方針を確認しました。

2012年度の役員については、会計のみ変更がありました。今までの白崎順子さん(立川)に代わり、斉藤とし子さん(無防備ネット・たま)にやっていただくことになりましたことを報告します。よろしくをお願いいたします。なお、当日欠席された会員の皆さんには、議案書をお送りします。

(事務局次長：渡辺)

沖縄へのオスプレイ配備に反対する

2012年の方針にあるように、オスプレイの沖縄配備～日本配備に強く反対する行動の一環として、横田基地周辺の自治体へのはたらきかけを行っています。残念ながら採択はされませんでした。6月に立川市議会へ、「無防備地域宣言ネット・たま」と共同で、以下の陳情を行いました。

横田一本土基地への配備断念を踏まえ、普天間基地へのオスプレイ配備に反対する意見書提出に関する陳情

横田・基地被害をなくす会

無防備地域宣言ネット・たま

陳情代表者 塚本 秀男

陳情の要旨

「オスプレイの横田基地への一時配置の中止」を求めた横田基地周辺市町基地対策連絡会を構成する首長連名の要請書(別紙 裏面)の精神を発揮し、普天間基地へのオスプレイ配備に反対する市議会意

見書を日本政府等に提出を求める。

陳情の理由

昨今の報道によれば、「日米両政府は、米軍の新型輸送機MV22オスプレイ12機を、7月中旬に那覇市内の米軍施設に配備することを決め、試験飛行や安全点検を実施したうえで、10月に米軍普天間飛行場(将来的には24機配備)に実戦配備する方針」とされている。

当初は普天間配備に先行して、横田基地等の本土基地に一時配備させる計画が出されたものの、本土基地周辺自治体首長らの素早い対応により断念させた経過があった。

沖縄現地では、沖縄県議会は2011年7月14日、米国防総省が新型輸送機オスプレイを12年後半に米軍普天間飛行場に配備すると発表したことに対し、「人命に関わる重大な問題、周辺住民からは騒音への不安や墜落への恐怖の声が上がっている」としたうえで、普天間飛行場への配備は「県民が強く

望む『一日も早い危険性の除去』に逆行し、断じて許されない」として反対する決議を全会一致で可決した。仲井真弘多知事も「モロッコなどで墜落が何回もあった。県民として受け入れられない」と表明されている。来る6月17日には「世界一危険な飛行場」とされる普天間飛行場を抱える宜野湾市・同市議会・同教育委員会主催の下に宜野湾市民大会が予定されるなど、オスプレイ配備は普天間基地の固定化つながるとして、その中止を求める県民運動が急速な盛り上がりを見せている。

沖縄復帰40周年のこの年に、「世界一危険な基地」とされる普天間基地へのオスプレイ配備により、基地周辺住民を「墜落の危険と爆音の激化」にさらすことは到底認められない。

横田基地による被害を受けている市民を抱えている立川市議会としても、「これ以上の基地機能強化や基地固定化につながる」オスプレイの普天間飛行場配備に反対する意見書提出が求められている。

1 貴市議会として、オスプレイの普天間飛行場への配備に反対する意見書を作成すること

2 上記の意見書を、日本政府・アメリカ政府・沖縄県・宜野湾市に送ること

立川市議会 議長 佐藤寿宏殿

2012年6月6日

参考資料：沖縄県議会採択 意見書

普天間飛行場へのオスプレイ配備計画に反対する意見書

去る6月6日、米国防総省は、海兵隊次期主力輸送機として垂直離着陸機MV22オスプレイを2012年10月に普天間飛行場に配備すると正式に発表した。

オスプレイは、開発段階での試験飛行や実戦配備後に墜落等を繰り返し、多数の犠牲者を出しているにもかかわらず、米側は同機の配備についてCH

46より静かで、安全性が高いと優位性のみを強調している。しかしながら、離着陸時の最大騒音はCH46を上回り、日常的に離着陸が繰り返される基地周辺では現状より騒音被害が増加することは明らかである。

さらに、オスプレイが普天間飛行場に配備された場合、同飛行場周辺や演習場のある本島北部地域では訓練マニュアル習熟のための飛行が激化する可能性があることから、隣接する小学校や周辺住民からは騒音問題、環境問題等に対する不安や怒りと墜落への恐怖の声が上がっている。

また、日本政府は、人命にかかわる重大な問題であるオスプレイ配備計画について、沖縄県や関係自治体への伝達を口頭で行うばかりか、米国では実施されているアセスメントが普天間飛行場で実施されるかどうかについては明らかにせず、配備中のヘリコプターにかかわる単なる機種変更と位置づけるなど、県民の生命と人権を無視した対応は言語道断で到底容認できるものではない。

世界一危険で欠陥だらけの普天間飛行場にオスプレイを配備することにより、既成事実を積み上げ、一方的に押しつけようとする日米両政府のやり方は、県民が強く望んでいる「一日も早い危険性の除去」に逆行するものであり、断じて許されるものではない。

よって、本県議会は、県民の生命、安全及び生活環境を守る立場から、普天間飛行場へのMV22オスプレイ配備計画の撤回を強く要請する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成23年7月14日

沖縄県議会

内閣総理大臣・外務大臣・防衛大臣・沖縄及び北方対策担当大臣あて

緊急連絡先

当会の事務所は、原則として毎週水曜日夜7時～9時には事務局員が在所しています。その他の日は、留守電に連絡先電話番号・お名前を録音するかFAX、メールでお願いします。留守電・FAXは2日毎、メールは毎日チェックしています。お急ぎの方は、事務局・福本（携帯090-4951-0800）までご連絡ください。

会費の振り込み先

会費納入は、以下の口座へお願いします。

①ゆうちょ銀行 店番008 普通6875225

②ゆうちょ銀行 記号10040 番号68752251

※①②とも名義は横田・基地被害をなくす会

③中央労働金庫立川支店 店番282

普通預金（口座番号）1074068

（会員枝番号90002-000）

名義：横田基地飛行差し止め訴訟団 浅野

※年会費は、個人2000円、団体1口2000円

普天間からの写真報告

普天間米軍基地から爆音をなくす訴訟団



「オスプレイ配備に反対する 沖縄県民大会」を成功させよう

日時：8月5日(日)(PM3時開始) 会場：宜野湾市海浜公園



普天間基地の早期無条件撤去は県民の総意！オスプレイが配備されると基地は固定化され、ますます強化されることになり、断じて許すわけにはいきません。今や県民の怒りはマグマのごとく湧きあがっています。基地の県内移設に反対する県民会議では、日米両政府にオスプレイ配備反対の強い決意を示し、8月5日に開催される県民大会への参加を多くの県民に呼びかけるため、左記の期間座り込み行動を始めました。

**「オスプレイ配備反対
市民委員会」(リード)**
日時：7月22日(日)17:30～
会場：那覇市市民ひろば
※委員会後継座り込み(リード)

座り込みご協力をお願いします
期 間：7月9日(月)～8月4日(土)
午前7時～午後6時
場 所：宜野湾市大山
(国道58号線大山バス停)
普天間基地第1ゲート入口

主催団体：基地の県内移設に反対する県民会議
構成団体：平和運動センター・安部義典沖縄統一連・平和市民連絡会
ヘリ基地反対協・浦添市民の会・県労連・自治労・高教組
沖縄組・日本共産党・社民党・社大党
共催団体：普天間爆音訴訟団・新嘉手納爆音訴訟団

8月5日の県民大会に向けたテント座り込み。普天間基地第1ゲート前で、毎日呼びかけをしています。
※8月5日の「オスプレイ配備に反対する沖縄県民大会」は台風のため延期となりました。が、台風からの避難は軍用機も同様。この間、普天間から(昨年同様)KC130等が横田へ避難し、横田で訓練を行っています。

基地と…

斉藤寿子(横田・基地被害をなくす会・会計)

何年か前、家から最寄の鉄道駅に行く途中、鬱蒼とした木々に覆われた地域に「基地反対」という立て看板が目についた。住宅地に突然「基地反対」の看板が…。しかしいつの間にか看板はなくなり、ガーデニング墓地が建設されていった。見間違いだった。基地と墓地、本質的近似性にみちた二つの場所。

1977年9月27日午後1時17分頃、米海兵隊RF-4Bファントムジェット機が米海軍厚木基地から相模湾沖の空母ミッドウェーに向け離陸直後、燃料満載の状態でエンジン火災を起こし住宅地に墜落した。全長19メートル、重量26トンの機体と大量のジェット燃料は、横浜の中心部から北西に15キロ程の国道246号線と東名高速道路が交差する荏田町を一瞬にして火の海にした。米軍から連絡を受け厚木基地から緊急発進した自衛隊の

救難ヘリコプターは、10分後には現地に到着、パラシュートで脱出した二人の乗員を救助、厚木基地に無事帰還した。約1時間後の14時20分頃に現場に到着した米軍関係者は、現場周囲の人たちを締め出し、エンジンなどを回収した。

墜落地では一般市民9名が負傷、周辺の人々により病院に運ばれたが、林裕一郎(当時3歳)、康弘(当時1歳)の兄弟は全身火傷により翌日死亡、母親の土志田和江さんは全身火傷を負いながらも生き延びたが、1982年1月26日、4年4ヶ月後に国立武蔵療養所で亡くなった。彼女が亡くなったのは私の住む地域に近く、萩山駅前、現在は国立精神・神経医療研究センターである。

沖縄国際大学のヘリ墜落事件、御巣鷹山への日航機墜落事件では横田基地に着陸要請したものの拒否されていたとのことを、訴訟団の基地ツアーで知った。

そしてアメリカ本土では5年間に58件(ほぼ月に1件)の事故を起こしているのに、日本に配備されるオスプレイ。基地と墓地、その本質的近似性が脳裏を去らない。

戦争ができない日本

西村一昭（横田・基地被害をなくす会・会員）

日本は憲法で戦争をしないと決めているが、政府や多くの国民はその憲法をほとんど無視している。ところが日本は戦争をしない国ではなく、戦争ができない国なのである。

それは 54 基もの原子力発電所の存在である。防衛大臣や自衛隊の幹部は日本が戦争をする時、54 基の原子力発電所を敵の攻撃から守れると思っているだろうか。もちろんそんなことは思っていないし、実際不可能でもある。福島原発では水素爆発ですら収拾不可能の放射線拡散をもたらした。戦争になって、航空機による爆撃、艦砲射撃、ミサイル攻撃等通常兵器による攻撃でも 54 基の原発を守ることが不可能である。このような攻撃を受けた場合、稼働中、停止中にかかわらず大量の放射線の拡散をもたらす。再稼働反対も戦争になったら意味がない。福島原発 1 箇所ですら、もしかしたら首都圏からの避難も想定しなければならないのであるから、54 基のうちいくつかでも放射線を拡散させたら日本は終わりである。戦争相手国に原発だけは攻撃しないでとお願いすることなどできもしないし、そんなお願いなど相手国が受け入れることなどあり得ない。というわけで、自衛隊もどこかの国と戦争することはできないと考えているであろう。奇妙なことにストレステストでは戦争とテロは除外されている。その前提は日本の原発は戦争やテロの攻撃は受けないということだ。これでは慎太郎や田母神がいくら息まいても自衛隊は戦争はしない。

今慎太郎たちが一番戦争をやりたい相手は北朝鮮であろう。北朝鮮は核兵器をもっているらしいが、1 万発も持っているアメリカ相手に核戦争をやる気はない。アメリカからしかけられたら、負けるに決

まっているが、数発の核兵器で一矢を報いるだけだと言っている。アメリカ本土まで攻撃できないから一矢を報いる場所は日本の米軍基地になるだろう。北朝鮮はわけのわからない国だから金正恩や軍部が勝手に戦争を始める可能性もあると考えている人も多いかもしれない。金正恩体制はそんなことを考えず、かつ軍部をコントロールしているであろうが、日本政府はアメリカや韓国が戦争をしかけないようにする外交努力と同時に朝鮮半島の平和のための外交努力をどれだけしているのであろうか。強制連行問題や日本国内の高校無償化問題の対応を見ているとなにもしていないとしかみえない。さらに暴発は北朝鮮より、原発があろうと、自衛隊がどう考えようと、とにかく戦争をしたい勢力が増えている日本の方が心配である。

憲法ではなく私たちが反対している原発がとりえず日本の戦争を不可能にしているのは皮肉ではあるが現実である。防衛省や自衛隊に、日本は原発があるので戦争ができないと明言させなければならない。しかし戦争をしたい人たちにとっては核兵器も原発も戦争抑止力にならない。今こそ憲法の理念を日本に確立することが重要である。

オスプレイの危険性に関する書籍

もっとあるのかもしれませんが。巻末の「天欄」でも触れたが、今のところ私が持っているものはこれだけ。当会副代表大沢氏の HP だが、以下も参照するとよいと思う。(F)

<http://homepage2.nifty.com/osawa-yutaka/heiwa-osupurei-kankyo-rebiew.html>



住所やアドレスの変更がある方はお知らせください。

NEWS が宛先不明で戻ってくることが、また、急ぎのお知らせをメール送付しても届かないケースが、見受けられるようになりました。住所変更やメールアドレス変更がある場合はお知らせください。

経過報告と今後の予定 (2012 年 6 月 10 日～)

6 月 10 日 第 3 回定期総会 (昭島・武蔵野会館)
 6 月 19 日 弁護団・原告団会議
 6 月 30 日 オスプレイは沖縄にも横田にもいない
 6.30 行動 (福生公園の集会～デモ)
 7 月 5 日 役員会議
 7 月 8 日 全国一般の基地案内打ち合わせ
 7 月 10 日 労組関係上部団体 (自治労東京都本部、東京平和運動センター、三多摩平和運動センター) に支援等要請
 7 月 13 日 事務局会議
 7 月 14 日 濱谷一橋大学教授・1984 年の横田基地被害調査データの処理について
 7 月 20 日 新騒音計データ処理ソフトの操作説明会
 7 月 21 日 全国一般等労組に、基地案内～講演
 7 月 23 日 第 2 次嘉手納訴訟副会長・全国基地爆音訴訟原告団連絡会議副代表又吉清喜氏逝去
 7 月 24 日 自治労東京都本部・単組代表者会議にて支援と協力の訴え

7 月 27 日 弁護団の基地調査～陳述書 (モデル) 作成
 8 月 2 日 弁護団。原告団会議
 8 月 3 日 第 9 次訴訟・原告募集オルグ (昭島地区)
 8 月 6 日 第 9 次訴訟・原告募集オルグ (立川地区)
 8 月 10 日 第 9 次訴訟・原告募集オルグ (立川地区)
 8 月 10 日 役員会議

*****【以下は予定】*****

8 月 11 日 NEWS 発行
 8 月 11 日 NEWS 発送作業
 8 月 17 日 基地・騒音調査 (横田基地周辺各所)
 8 月 18 日 日米友好祭 (横田基地開放日)
 8 月 19 日 //
 8 月 20 日 基地周辺労組に 9 次訴訟支援協力要請
 8 月 23 日 三多摩平和運動センター幹事会で第 9 次訴訟支援訴え
 8 月 27 日 基地周辺労組に 9 次訴訟支援協力要請
 8 月 29 日 弁護団・原告団会議 (13 時～)

6 月末、3 日続きのデモをした。6 月 28 日は、立川での「C-1 ジェット飛来反対デモ」。立川基地が米軍に代わり自衛隊基地になった 1977 年、政府は「防災基地である」と強弁した。82 年秋以来の航空自衛隊輸送機 C-1 飛来も「防災のため」である。老朽化しすでに何機も墜落している。飛来は危険でむしろ災害を招くものだ。飛来予定日一平日のデモだから、参加者は少ない。その時々テーマを取り上げる。最近のシュプレヒコールも「原発」が半分は占めている。沿道の人々の関心は高く、手を振ってくれる人もいる。この日もそうだった。29 日は、好奇心も手伝って、首相官邸の抗議行動に行ってみた。原発問題は「日米安保」の問題もある。アメリカが原発を止めさせてくれない。中国包囲網というアジア戦略上、日本の核能力を保全したいのだ。原子力基本法に最近「安全保障」目的が追加された、という由々しい問題もある。「オスプレイ来るな！日米安保やめろ」とボール紙に大きく書いて持っていった。国会の塀際に座って集まる人々を観察。警官が「反対側の歩道にあがってください」と言ったが、若干の抵抗を試みて座り続けた。乳母車も杖も、車いすも、老いも若きも、加わった人々の群れがやがて歩道から溢れ、車道を埋めた。ジリジリと官邸に近づく群衆に混じって、「オスプレイ」を頭上に上げて歩いた。自分の判断で、自分の意見を伝えたくて、再稼働があってもあきらめずに…この行動が続くといいなと思う。30 日は、わが「なくす会」も主催者に名を連ねる「横田行動」

天欄

のデモだった。参加者を上回る公安警察官の数だった。横田基地の門には、新たに空自のマークが付いていたが、申し入れは向かい側の交番敷地内。米軍と自衛隊の力関係をつくづく認識させられた。原発とオスプレイは実はともに「日米安保」の問題である。対照的な反原発と反戦でもそれぞれに参加しながら、合流を模索したいと思う。いろいろ考えさせられた 3 日続きのデモ。でも少々くたびれた。(K)

「オスプレイ配備の危険性」(沖縄平和市民連絡会・真喜志好一、リムピース+非核市民宣言運動・ヨコスカ共著、七つ森書館発行、定価 1200 円+税) という本が 8 月 15 日に発行された。といっても、私が手に入れたのは「10 万人沖縄県民大会に呼応する 8.5 首都圏集会」の会場だった。当会会員の遠藤氏からの薦めもあったのだが、内容は非常にわかりやすく、前段に作成された小冊子「オスプレイの普天間配備の危険性」(リムピース+非核市民宣言運動・ヨコスカ編集) より一段と濃い内容になっている。様々な情報から考えるに、いろいろな意味でオスプレイはとんでもない軍用機だが、「危険」を声高に言いすぎると、しっぺ返しに来るようで怖い気もする。危険性の低い他のヘリなら配備 OK なのか、オスプレイよりましだろうという妥協が生じないか。緊急に迫っている現状での対処療法は急務だが、そのあとに何が待っているのか。日本政府は、今まで、米軍のやろうとしていることを何も知らなかったし…。米政府・米軍の本意は何だ。(F)